中　国　語

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

１　前　　文

令和３年度大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）⑵の試験を共通テスト⑴同様，以下の３点をよりどころにして，検討・評価に当たることにする。

⑴　共通テストは「高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とする」試験であるという観点に立ち，高等学校学習指導要領「外国語」の目標を重視する。

⑵　教育現場からの「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題」となっているかについて，次の「四つの基本的要望」が尊重されているかを重視する。

①　細かすぎる難解な語法を問うことはせず，基本的な文法力を問うこと。

②　長文読解は，高校生になじみやすいテーマを選び，分かりやすい簡潔な文章を出題すること。

③　リスニング試験が実施されないことを補うために，ピンインを重視して出題すること。

④　長文読解においては，内容が抽象的で論理的に説明が難しいような出題は避けること。

⑶　令和２年度の問題作成部会の見解「問題作成の方針」を参考とすること。

２　試験問題の内容・範囲等

第１問　共通テスト⑴と同様の形式で，発音の基礎を確認する問題である。

第１問 計９問 (計36点)	A	B	C	D
	声母	韻母	声調	ピンインによる会話
	８点（４点×２問）	８点（４点×２問）	８点（４点×２問）	12点（４点×３問）

昨年度よりも１問増え，今年度は４点×９問，計36点の配点となった。

A　昨年度同様，見出し語の下線部の声母（子音）と同じものが選択肢の中に幾つあるかを選ぶ形式であった。提示された語句はみな重要語である。

問１　“f”と“h”の判別問題で，見出し語も選択肢も重要語であり，適切である。

問２　舌先音“d”であるが，有気音と無気音の判別問題にするなど工夫が必要であると思われる。

B　例年どおり，韻母（母音）に関する出題である。

問１　“eng”の鼻韻母を問うもので，見出し語も選択肢も重要語であり適切である。 b“吩咐”は教科書では見慣れない単語であるが，旁の「分」から類推できる。

問２　“ü”と“u”の判別問題で，ピンインの理解を問う良問である。

C　見出し語と声調の組合せが同じものの数を問う問題である。声調以外に，選択肢の単語に鼻濁音，巻舌音，有気音，無気音などが含まれ，適切である。

問１　見出し語も選択肢も重要語であり，適切である。

問２　見出し語も選択肢も重要語であり，適切である。

D　昨年度までは第２問の問題であった。文は会話文と選択肢ともにピンインで示してあり，ピンイン学習を重視する問題であり評価できる。

問１　会話文，選択肢ともに難解な語句はなく，“现在也不晚”「今からでも遅くない」を読み取れているかを見る良問である。

問２　会話文，選択肢ともに難解な語句はなく，“我可不觉得,你还是那样,一点儿也没胖”を読み取れているかを見る良問である。

問３　会話文，選択肢ともに難解な語句はなく，“上网买东西,你呢?”に対する答えとしては“我也常上网买”であり、前後関係を読み取れているかを見る適切な問題であるが，“拿不定主意”はやや難解である。

第２問　共通テスト⑴同様，文中に入る適切な語を考える問題である。Ｃは新しい形式で，まとまった文中の２か所の空欄に適語を入れる形式である。

Ａ　共通テスト⑴の問題同様，中文の空欄に適当な語を入れる問題。文も短く適切な字数である。

問１　副詞“一共”の用法を問う問題。やや容易である。設問に工夫が欲しい。

問２　“常常”が入るが，“平时”との使い方の違いを問う良問である。

問３　意見を出す，提案するという意味の“建议”を選ぶ問題。語の用法を捉えているか確かめる適切な設問である。

Ｂ　空欄に適切でないものを入れる問題。類似した意味を持つ選択肢の中から正しいものを選ぶ問題は，読む文章量が多くない高校生にとって難易度の高い問題である。比較的用法が分かりやすい語句が出題されたと言える。問題作成の着眼点が偏っておらず適切である。

問１　“条件”“水平”“状况”“环境”はどれも頻出語であり平易な語ではあるが，その語句の使い方を問う良問である。

問２　“率领”の使い方が場面として不適切なこと，他の語の用法を確認する適切な設問である。

問３　“急忙”は単独で状語になることはできず，程度を表す副詞の修飾も受けない。語の用法を問う適切な良問である。

Ｃ　短文に適語を８つの選択肢から２つ選ぶもので，「“马上”和我联系」や「都市の“面貌”」といった表現は慣用的な表現であり，まとまった文章中で基礎的な語の使い方を見る適切な問題である。

第３問　和文中訳，中文和訳を通して，中国語の表現力，理解力を測る問題である。

Ａ　和文中訳問題で，与えられた８つの単語から４つ選び並び替えるもので，選択肢の語句も重要語の範囲内であり，文法や語句の用法の理解を確認する問題として適切である。

問１　「どこかで」の訳“找个地方”は慣用的な語句で基礎的な問題であり，適切である。

問２　強調の“可”の用法の理解と“犯错误”を問うもので，適切である。

問３　“被人问题问住了”が導き出せるかが問題であるが，“问住”はやや難解と思われる。

問４　「行くなとは言わない」の二重否定と「別に」という否定や反語の語調を強める“又”の用法の理解を見るもので，やや難解であるが適切な設問である。

Ｂ　和文中訳の問題で，選択肢の中国語文はピンインで示され，口語的な表現や基本的な文型の理解を問う問題である。

問１　“只要～就‥”“尽管”を理解し，しっかり訳せているかを確認する良問である。

問２　反語“难道～吗”の理解を確認する適切な設問である。

Ｃ　中文和訳の問題で，問いの文の中国語はピンイン表記である。

問１　中文の意味の理解を問い，日本語と中国語の訳に乖離がなく適切である。

問２　“没想到”が文全体にかかることの理解を確認する適切な設問である。

第４問　共通テスト⑴同様昨年度と問題形式が変わり，Ａの「日程表・会話文・カレンダー・短文」，Ｂの「文章・スライド・イラスト・短文」の複数の言語材料から総合的に判断する融合

問題２題に形式が変わった。

A　ある区のボランティア活動の日程表を基に会話やカレンダー，短文を照らし合わせ設問に答える問題。

問１　選択肢の意味を正しく理解し，日程表と照らし合わせて正しく判断することを試す適切な問題である。

問２　会話文を読み，条件に合う活動を考える設問。条件をうまく組み合わせて総合的に判断するように考えた良問である。

問３　カレンダーを基に佐藤と山本の行動を考えさせる問題。(1)(2)ともに丁寧に読めば正答でき，適切であるが，中国語の理解力と言うより組合せを考える面が強い感がある。

問４　ウェブサイトのコメントと合致する活動を答える設問。よく練られた良問である。

B　浪華山の紹介文を読み，二枚のスライド・登山道のイラスト・短文と組み合わせて考える問題。

問１　⑴　景色を楽しむことをまとめたスライドに入れるのに適切な文を選ぶ問題。単語や語法に難解なものはなく適切な設問である。

⑵　動植物についてまとめたスライドに加える，適切な文を選ぶ問題。細かい点も注意して読むことで正しく答えられる。よく考えた良問である。

問２　登山ルートを示したイラストの中から適切なものを選ぶ問題である。紹介文から要点をつかんで読み，整理して考えることが要求される。総合的に思考させる良問である。

問３　４行程度の短文から紹介文を基に，登山の時期・ルートを考える問題。適切な問題だが，これまでの問題を解いてくると分かりやすい面があると思われる。一考を要する。

第５問　雪資源の利用に関する評論の読解問題である。

問１　接続詞の意味と用法の理解を問う問題で，適切である。

問２　ピンイン文の日本語訳で，“半天”には「長い時間」という意味があることや “排到我”の結果補語の訳を確認する適切な設問である。

問３　空欄部に入る文の並べ替え問題で，内容把握力を見る適切な問題である。

問４　４つの空欄部に入る語句を選ぶ問題で，第三段落の内容を理解した上で，文章全体の内容理解を測る適切な問題である。

問５　センテンスの構造が理解できるかを見る適切な問題である。

問６　空欄に適語を入れる問題で，選択肢の語句には難解なものはなく適切である。

問７　下線部は前の文を受けて“不少人都是因为…”と考えるべきで，文全体の意味を考えて“都”の位置を選ぶ問題である。やや難解であるが，よく練られた良問である。

問８　下線部から内容理解を見るもので，適切である。

問９　第４段落，第５段落をまとめた内容が入り，段落の要旨を捉えられているかを問う適問である。

問10　選択肢に紛らわしい日本語はなく，本文の内容理解を見る適切な問題である。

３　分　量・程　度

⑴　分量

今年度は第５問の量は33字×24行(問題箇所・句読点・改行含む。)であり，内容と考えあわせて適切と思われる。本文の文字数は約600字で，適切な分量である。文章中に難解な単語もなく高校生にとって適切な問題である。第４問も資料や会話，文章が多くなり全体としては読む力がより求められる。

⑵　程度

共通テスト⑴同様，共通テスト⑵の設問は，高校生にとって抽象的すぎず難解なレベルのものも多くなく，適切な出題であった。第４問，第５問の長文も共通テスト⑴と同様のレベルであり，正確な読解力を測る適切な文章であった。

４　表　現・形　式

共通テスト⑴と同じ形式と配分であり，表現，形式も妥当である。

内容	発音・ピンイン	語　句	表現力	複合的な資料の読み取り	長文読解
設問	第１問	第２問	第３問	第４問	第５問
設問数	9	7	8	7	10
配点	36点	32点	32点	52点	48点

５　要　　約

令和３年度共通テスト⑵の問題は，設問形式やその内容において，また単語の選択も高校生レベルの出題が多く，高等学校から中国語を学び始めた受験者を意識した出題者の工夫が感じられた。共通テスト⑴と同等の受験者がいれば，同程度の平均点だったと予想され，適切な難易度であった。

今後とも「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる問題とする」ことを大前提として，本試験・追試験ともに同レベルの問題作成に当たっていただくことを希望する。

各設問を総合的に見て高校３年間で学ぶ中国語のレベルに近づいてきたと考えられる。そうした中で思考力・判断力・表現力等を総合的に問う問題形式が見られ，評価できる。

受験者数は微減であるが，外国語の受験状況の割合としては変わっておらず，外国語における中国語科目の社会的なニーズの高まりを示していると考えられる。今後も共通テストの科目として有効に活用されることを希望する。全体としてはおおむね適切な問題だったが，今後の出題として以下の点に御考慮いただきたい。

・今年度高得点だった設問を次年度に難易度を極端に上げないようにしていただきたい。
・第１問の単語の知識を問う問題では，日頃学んでいる見慣れた単語を選んでいただきたい。
・第４問については図表等を効果的に使った問題作成を期待したい。第５問の文章量は，設問の難易度とのバランスを考慮していただきたい。内容が抽象的すぎないような配慮をお願いしたい。
・高等学校から中国語学習を始めた生徒たちが「是非受験したい」と思う出題をお願いしたい。
・今年度の報告書に則して，高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題を今後ともお願いしたい。

第２　問題作成部会の見解

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　英語以外の外国語については，大学入試センター試験の枠組みを受け継いだ『筆記』テストを課し，「リスニング」テストは実施しない。

○　教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。

　また，実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面，状況の設定を重視する。

○　問題作成に当たっては，CEFR等を踏まえた力を問うことをねらいとして作成する。

　その際，大学教育の基礎力を踏まえ，また，高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し，問題作成を行う。

２　各問題の出題意図と解答結果

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）第１回である令和３年度の問題の種類と各設問数，配点の内訳を【表１】に示す。200点満点は大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）と変わらないが，従来２題出題していた長文問題を１題に削減し，大問５題とした。ただし，全体の解答数については，前年のセンター試験の変更を引き継ぎ，同じく52とした。

第１問は発音問題であるが，Ｄに関しては，ピンインによる出題をリスニング問題の代替とする観点に基づき，従来の声調の組合せを選ばせる問題から，これまで第２問Ａで出題していたピンインによる会話問題に変更した。これに伴って第２問は，従来の第２問ＢをＡに，第２問ＣをＢに移した。加えて新第２問Ｃを新設し，100～120字ほどの文章を読み，文脈に従って適当な語を選択する問題とした。第３問は大きな変更はない。第４問は，コミュニケーション能力を読み取り測定する観点から，問題をより充実させた。中問Ａでは，文章・表・会話から情報を読み取った上で適切な選択肢を選ばせ，コミュニケーションにおける情報の受信力を測定できる問題とした。中問Ｂでは，文章・イラスト・メモ・グラフから情報を読み取り，それらを総合して発信することを想定して，適切な選択肢を選ばせ，コミュニケーションにおける情報の発信力を測定できる問題とした。このような問題の充実に合わせて設問数を４つ増やし，配点も52点に増やした。第５問に関しては，従来長文問題では物語文を読解する問題と論説文を読解する問題の２題を出題していたが，第４問の拡充に伴い，長文問題を１題に削減した。第５問の設問数は，従来の長文問題の大問１題当たりの問題数が７から８であったのを増やし，11とした。

【表１】

問題の種類	発音・ピンイン	語　句	表現理解力	コミュニケーション力	長文読解
問題番号	第１問	第２問	第３問	第４問	第５問
解答数	9	8	12	12	11
配　点	36点	32点	32点	52点	48点

第１問：発音の基礎及び正確さを確認する問題，正確なピンイン把握によるコミュニケーション力を確認する問題である。

　音節の三つの要素（声母，韻母，声調）について問う出題及び正確なピンインの把握によるコミュニケーション力を問う出題となっている。中問ＡからＤにわたって，日本の高等学校

で初めて中国語を学ぶ生徒の語彙の習得範囲を考慮し，基本的な単語から出題した。高等学校教科担当教員（以下「教科担当教員」という。）からは，発音問題全体に関して，提示された語が常用される単語になっており，適切な問題であるとの評価を得た。

Dについてはこれまで同様，会話文，選択肢をピンインで出題した。中国語表記の補助手段としてピンインによる表記法を用いることは，中国語の４技能をバランスよく習得するために必要な手段であり，日本の高校における中国語教育では極めて重要である。教科担当教員からは，難解な語句もなく，ピンイン学習を重視した出題であり，適切であるとの評価を受けている。

A：[1]は“f”と“h”，[2]は有気音の“t”と無気音の“d”の区別を問うもので，正確な発音の習得と知識が求められる。

B：韻母に関する知識を問うもので，[3]は“-eng”と“-en”の区別，[4]は“-u”と“-ü”の区別を問うた。

C：声調に関する知識を問う問題で，二音節語における声調の組合せを問うており，５つの二音節語，即ち10の音節に関して正確に把握していなければ正解は導けない。中国語を学ぶ初学者にとっては習得に苦労するポイントであると同時に，相当中国語に習熟した者でも正確な知識をまま欠くことがある。

D：昨年まで第２問Aで出題していたものを，ピンインで出題する形式であることから，第１問のDに置いた。

第２問：語彙力・表現力を測る問題である。

Aは文の一部をブランクとし，適当な語を選ばせる問題で，単語の意味・用法に対する正確な知識を問う問題である。あわせて類義語の区別も問うた。教科担当教員からは，一部でやや容易な問題もあったが，おおむね適切な良問であるとの評価を得た。

BもAと同様に，単語の意味・用法に対する正確な知識を問う問題である。適当でないものを選ばせることで難易度を上げている。教科担当教員からは，問題作成の着眼点が偏っておらず適切な問題であると評価された。

Cは新しく導入した形式で，100～120字程度の短文の空欄に入れるのに適当な語を選ばせる問題である。教科担当教員からは，まとまった文章の中で基礎的な語の使い方を見る適切な問題であるとの評価を得た。

第３問：作文能力及びコミュニケーション力を測る問題である。

和文中訳と中文和訳を通して，中国語の表現力，理解力を測る問題であり，設問形式や設問数は昨年度と同じである。

A：日本語の文を読み，与えられた語句を正しく並べて対応する中国語の文を作る，和文中訳の設問である。８つの選択肢から必要な４つを選び正しく並べる問題は，受験者が比較的苦手とするものである。連続する空欄の途中に挟まれた“再”など，与えられた条件に合わせて，日本語の文に対応する中国語の文を作る能力が問われた。

B：和文中訳問題で，選択肢の中国語はピンインで表記してあり，日本語の日常的な表現に対応する中国語の運用能力を測ろうとするものである。問１，問２ともに日本語の表現を的確に理解した上で，ピンインで示された中国語の選択肢の全てをそれぞれ最後まで読み解かなければ正解が導けないように工夫した。

C：中文和訳問題で，問題文の中国語はピンインで表記してある。選択肢の日本語文を最後まで読み解かなければ正解できないように工夫した点は，上記Bと同様である。

教科担当教員からは，第３問を通じて，やや難解な言い回しも出題されているが，選択肢

の語句も重要語の範囲内であり，適切な問題であるとの評価を得た。

第４問：日常生活や学習活動など，実際のコミュニケーションの場を具体的に設定して，身近な話題に関する資料から，必要な情報を読み取り，複数の情報を比較・判断して要点をつかむ力を問う問題である。言語情報処理的観点から必要な内容を整理・統合して正しい解答を得るようにしている。中問Ａでは情報を受信する場面における中国語運用能力，中問Ｂでは情報を発信する場面における中国語運用能力を問う。

日常生活に即した素材からの出題であるため，従来出題には使われなかった語彙もこの第４問に限り取り入れている。ただし，受験者にとって難度が高い語彙は避け，正答を導くのに必要な情報は適切な語彙レベルを維持するよう，配慮した。また，現実の生活の場では随所にイラスト・図表・メモ・グラフなどを使って情報をスムーズに伝える工夫がなされており，ここでそれらを用いるのは，そのような日常生活の中での中国語の運用能力を問うことを主眼とするためである。

Ａは，ボランティア活動の一覧表から情報を受信し，ボランティア活動を行ったり，ボランティア活動について調べたりする，という場面を設定している。

一覧表の内容とカレンダーを突き合わせ，日程変更の根拠をスケジュール等から導き出す 33 は，比較的複雑な情報処理が必要であるにもかかわらず，正答にブレがないことが明白で，受験者は解答しやすかったかもしれない。 33 については，教科担当教員からは，中国語の理解力と言うより（答えの）組合せを考える面が強い感があるとの指摘を頂いた。

Ｂは，山の紹介文を参考資料として，学生がプレゼンテーションを行うという，発信型の状況を設定している。

教科担当委員からは，細部まで注意して読む必要があり，情報を整理して考える必要がある良問だとの評価を得たが， 41 については，それまでの問題を解いてくると容易に解答が導けるのではないかとの指摘を頂いた。

第５問：長文読解力を測ることを主たるねらいとしている。共通テストへの移行に伴い，長文問題を従来の２問から１問に変更したため，全大問中ただ１つの長文読解問題である。

素材は，長文の論理構成を把握させる意図から，論説文とした。長文の分量は，長文問題の大問が１題削減されたことに伴い，800字強に増やした。問題文は，使用語句，表現などにも留意しながら，共通テストにふさわしい内容に書き換えている。素材や書き換えなどについても，教科担当教員から毎年提出されている要望を反映するよう努めている。

今回の問題文は，かつて人々の生活に不便をもたらしていた雪が，時代の発展につれて，資源あるいは経済効果をもたらすものに変わってきたことを論じた文章である。

本文の内容と一致するものを選ばせる 51 ・ 52 ，文の意味内容を問う 46 は，読解力を測る指標となっている。一方，適当な中国語の語句を入れさせる 44 ， 45 ， 47 ， 48 ， 50 は，文章の流れを論理的に把握しているかを問う出題としている。

教科担当教員からは，語句の用法や文章内容の理解を確認する点で難解なものはなく，適切な問題であったとの評価を得た。

３　まとめと今後の課題

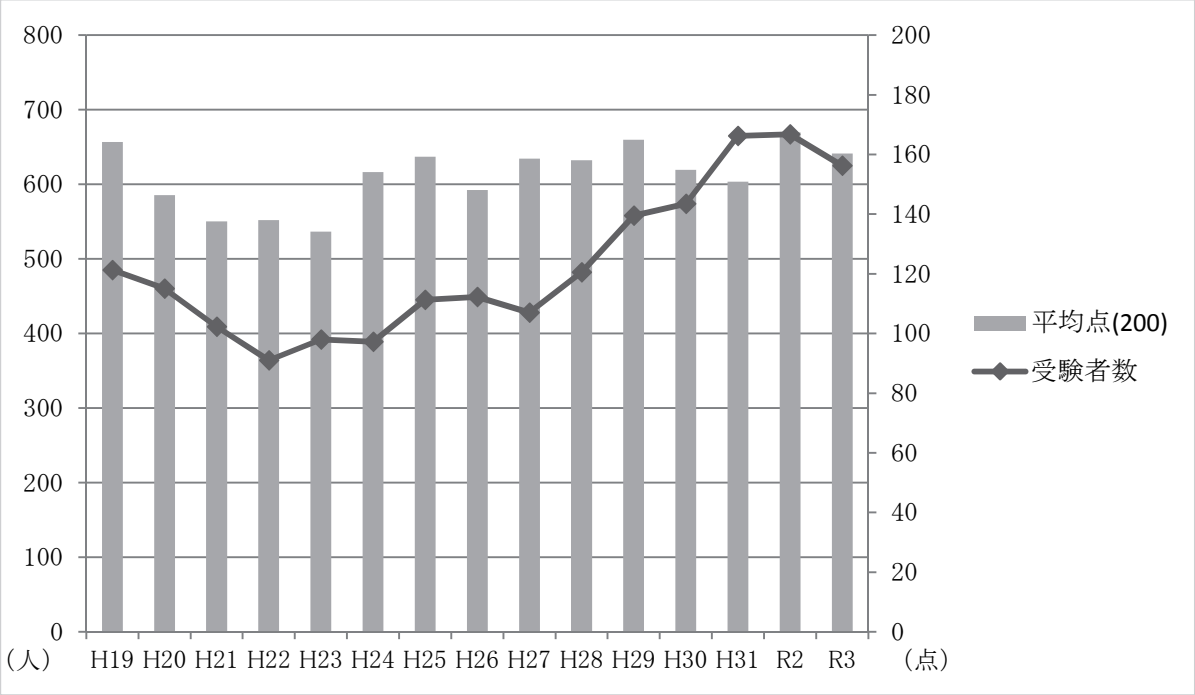
平均点は，共通テスト⑴が160.34点（200点満点），100点満点換算で80.17点であり，最高点は200点，最低点は30点，標準偏差は32.63であった。共通テスト⑵が161.14点，100点満点換算で80.57点であり，最高点は191点，最低点は54点，標準偏差は31.57であった。共通テスト⑴と共通テスト⑵では，受験者数が大きく異なっているため，単純に比較できないかもしれないが，平均

点は両者でほぼそろったと言えよう。中国語は他の外国語と比べ平均点が高い傾向にあるが，中国語の受験者層の特性を考慮すれば，いたずらに平均点にまどわされることなく，高校の学習で到達した学力を正しく評価できる試験であるべきと思われる。教科担当教員からも，高校からの学習者が対応できるような問題作成を強く要望されている。問題作成の方針が平均点によって揺らぐことは，学習者にとって望ましくないと思われる。

平成19年度以降の15年間の受験者数及び平均点の変化は【図１】となる。共通テスト⑴受験者は625名，共通テスト⑵受験者は14名であり，合計639名であった。これは，昨年の本試験受験者667名から28名の減少となった。受験者数は，この３年間で665名，667名，639名とほぼ横ばいで推移しており，高校において中国語教育が着実に定着しつつあることの証左と見ることができよう。平均点はここ数年100点満点換算で75～80点前後の点数で推移している。来年度以降も，共通テストの目的に則して，基礎的な学力を身に付けた受験者が報われるような問題作成を心がけていきたい。

共通テスト初年度の結果として見た場合，シンプルな情報摂取，情報把握を問うだけにとどまらず，語学の本来の意義である読解力を問い続ける必要性がうかがわれる。

今年度も教科担当教員の方々をはじめ各方面から有益な意見を頂いたことに，深く感謝したい。こうした意見を参考にしながら，「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる問題」の作成を通じて中国語教育の発展と充実に寄与していく所存である。



【図１】※令和３年度は共通テスト⑴のみ